様式3

令和６年度　香南市立保育所評価報告書　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　香南市立野市保育所

経営理念	〈保育目標〉げんき　のびのび　のいちっこ 〈経営目標〉一人一人の子どもを大切にし、保護者に信頼され、地域に愛される保育所をめざす 〈子ども像〉・自分のことは自分でしようとする子ども　・自分で考える子ども　・人の話を聞き、自分の考えや思ったことを話せる子ども　・思いやりの心を持つ子ども 〈保育所像〉・一人一人の子どもを大切にする保育所　・友だちとの関わりのなかで社会性を身につける保育所 ・保護者や地域から信頼される保育所　・幼稚園・小学校との連携を大切にする保育所 〈保育士像〉・子どもとの信頼関係を大切にする保育士　・意欲を育む環境を考える保育士　・チームワークを大切にする保育士 ・保護者とより良い協力関係を築く保育士　・専門性の向上に努める保育士

中期経営目標		評価項目	自己評価 達成状況	自己評価 評価	保育所関係者評価 考察	保育所関係者評価 評価	改善策等
保育・教育活動の充実	○幼児期の発達に応じた保育環境づくり。	体の使い方や発達を促す遊びの展開を考える	子どもの興味・関心や子どもの発達に合わせて一人一人が楽しんで参加できる活動を取り入れ、体を動かす時間を意識してきた。また、縄跳びなど苦手な活動も保育者がやって見せることでチャレンジしてみる子どもが増えた。継続して取り組んできたことで、意識して遊びに組み込むということができているが、少しマンネリ化しているともいえる。	B	取組としてはできていると思うが、中間からあまり変化がないことを鑑みると、マンネリ化ともとれる。今後の向上に期待をしている。	B	現状に満足せず、子どもの実態応じた活動内容を考え、職員間での話し合いや連携を取りながら、新たな取り組みを探り、進めていく。
		自己肯定感（自尊感情）が育まれるような関わりを行う	友だちに認められるだけでなく、自分の頑張りや好きなところにも気づくことができるような時間をつくったり、自分自身の事を大切と感じられるような関わりを心がけてきた。一人一人を大切にする関わりを継続してきたことで、自分や友だちに対して大切にする気持ちが芽生えてきている。	B	分析結果を見ていると、保育者と子ども間での関わりから、子どもが自分自身を認めたり、他者（友だち）への認めという姿が見られるようになっている等の意識の成長が感じられる。大切なことなので今後も継続していってほしい。ただ指標の達成度が高く評価としては低かったのではないか。	A	今後も自己肯定感（自尊感情）が育まれるような関わりを継続していけるような取り組みを行う。評価指標の設定についてはより考えて設定を行う。
		他者の思いに気づいていくための表現の仕方（言葉）が身につくような関わりを行う	伝わったことや話すことが楽しいと子どもが感じられるように、表情や身振り手振りなど聴く側も関わり方を工夫したり、様々な絵本を読んだり、沢山の歌に出会えるような時間を持つようにしたり取り組んできた。１～３歳児は言語表現が豊かに、４～５歳児は相手に伝わるような言葉で表現する力ができてきている。 育ってきている部分も大きいと思うが、担任の目指すところが高かった。	B	年齢に応じた取り組みができていると思う。言葉で伝えるという意識やもとめるものが高いのではないか。自分たちの取り組みに自信をもってこれからも取り組んでいってほしい。	A	低年齢の子どもには周りの大人の言動がモデルとなったり、幼児に対しては場面に合った言葉の使い方を伝えるなど年齢に応じた表現方法が身につくような支援を今後も継続して行う。 また、保育者自身の言葉遣いや行動が子どもたちに影響を与えているという意識もより一層もっておく。
職員の資質向上や運営	○共通課題に取り組む職員の協力体制づくり。	子どもの体力向上につながるような遊びの教材研究を行う	教材研究はあまり出来なかったが、職員間で話し合いや意見の出し合いなどをして、体を動かす活動を行った。また、保育者が楽しんで遊ぶ姿を見せることで興味を持ってやってみようとする姿が見られた。日々の保育のなかで確実に取り組んでいるが、教材研究を難しく考えていることと、教材研究と意識していないことが多かった。	C	教材研究という捉えを難しく考えているのではないか。［保育・教育活動の充実］の①と繋げて考えるとある程度達成されていると感じる。子どもの姿と保育者の意識の差はあるかもしれない。	B	教材研究という捉えを再度確認をし、客観的な視点で認めていくことも必要に応じて行っていく。また、個々に行うことと別に学年ごとや園全体で行う教材研究は研究主任を中心として年間計画に落とし込んでいく。また、客観的な視点で所長、副所長等が成果として認めていく。
		園庭のより良い使い方について職員間で考え、連携を行う	園内研修やブロック別研修等での学びを活かして保育に取り入れたり、今まで以上に職員間の連携や話し合いを意識する様にはなった。自身の保育や学年間だけでなく、園全体を見て考える中堅職員の力も育ってきた。それと同時に話し合いの時間と場の確保の難しさや課題に対しての視点や解釈の共通認識の難しさはある。	B	職員一人一人が自身の良さを活かして、組織のなかで役割を担い行動できているのではないか。それが園全体の高まりにも繋がっているのではないか。	B	経験年数に応じた学びができるような研修体制を整えたり、学びの伝え合い、共有ができる場の設定をしていく。また、一人一人が組織のなかでキャリアに合った力を発揮できるような園務分掌を考えていく。
地域に開かれた園づくり	○保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する。	野市中学校区の取り組みを知り、連携について関心を持つ	ブロック研修等で他学年の発達段階を知り、先を見通して今何をしていくべきか、以前より考えられる機会がもてた。また、発達の目安ファイルを活用して園内研修をすることで、子どもの姿をとらえやすくなり、発達の理解につながった。一方で、意識していないとは思わないが、関心をもつことがどうゆうことなのか解りづらさがあった。	C	実際には取り組んでいると思うが、職員一人一人が意識しているかが大切だと思う。意識して取り組むということを高めていくための工夫や指標の設定は今後の課題としてほしい。また、発達の目安ファイルについてはとてもわかりやすいので、保幼小の連携の観点からも是非小学校にも発信していくと良い。	C	実際には取り組んでいることも多いが、その取り組みが取組指標の内容として捉えにくい部分があったので、指標の設定を分かりやすくする。それと共に具体的な例や言葉を提示するなど保育者自身が自分事として考えていけるような工夫を考えていく。
		地域の自然などの教育資源を活用した保育を展開する	保育者自身が園周辺の自然環境等に関心を持ち、活動の場を広げていきたいと思うようになった。また、行事の折などに評議員、民生委員の方々に参加して頂いたことで、地域の方に対する親しみを感じたり、来客の方に挨拶したりなど自ら話しかける子どもが増えてきた。	C	取組指標3が難しく感じたのではないか。分かりやすく伝えることや文字として見た時の分かりやすさも工夫していくと良い。子どもの姿としては変容も見られていると感じる。	B	園内には自然環境が少ないため、積極的に自然と触れ合える遊びを取り入れたり、地域へ活動の場を広げたりする等、意識して保育の工夫をしていく。また、保護者アンケートでも季節感を感じたり、身近な自然と触れ合えるような活動を望む声が大きかったので、保護者に向けてもドキュメント等を活用し取り組みを発信していく。

【評価基準】Ａ：十分満足（９０％以上）Ｂ：おおむね満足（７０～９０％）　Ｃ：もう少し努力すべき（５０～７０％）　Ｄ：大いに努力が必要（５０％以下）